

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式			
AM14Z001		医療倫理学 I (MedicalEthics I)					導入教育科目 社会・経済		対面			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	1	1	医学部医学科	前期	月3	氏名 今井 浩光 E-mail imaih@oita-u.ac.jp 内線 5600						
授業の概要	医療における倫理を学ぶ基礎として、倫理の概念、倫理学の歴史と代表的な倫理理論の考え方を学習する。それを元に、社会における医療の意味、医療に求められる倫理、望ましい医療者患者関係などについても、学びを深める。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	倫理学の歴史と代表的な倫理理論を理解する。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	社会における医療の意味について考察する。				○							
目標3	医の倫理、望ましい医療者患者関係について理解する。					○						
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 倫理学の基礎、倫理的判断のあり方												
2 生命の価値、尊厳、社会と個人のあり方												
3 規範倫理学 1 (徳の倫理学)												
4 規範倫理学 2 (帰結主義)												
5 規範倫理学 3 (義務論)												
6 権利について (権利論)												
7 法と倫理												
8 ケアの倫理												
9 メタ倫理学												
10 医の倫理の歴史												
11 プロフェッショナルリズムと医療者の責務												
12 患者の権利												
13 ケアの倫理												
14 動画コンテンツ視聴												
15												
ラーニング コンテンツ グループ	A:知識の定着・確認	倫理的なジレンマを生む状況について、自らの考察をまとめ、レポートを作成する。少人数でのグループディスカッションにて多様な考え方があること、多面的な考察の重要性を学ぶ					工夫 その他	動画コンテンツを利用する。				
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを通じて、倫理的な課題を含む社会の出来事に常に関心を持つ (15h)										
	事後 学修	関心を持った事例について、授業で学習した知識、考え方をを用いて、考察する (15h)										
教科書	資料を配布する											
参考書	指定しない											
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	試験	90%	○	○	○							
	レポート	10%		○								
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	附属病院の医師
実務経験を いかした教 育内容	医療現場で起こる倫理的ジレンマを講義の題材とする。

